

# はじめに

一関市教育委員会

教育長 小 菅 正 晴

今日の教育を取り巻く社会環境は、多様に変化しており、グローバル人材の育成、キャリア教育の推進、子どもの状況に応じた特別支援の充実、いじめ防止等の対策、人格形成の基礎となる幼児教育の振興など、教育の質の向上が求められております。

また、市民の学習意欲の高まりに応じた多様な学習機会を提供することや、先人からの文化を受け継いでいくこと、文化財を保護し、活用することが求められております。

現在、市内の小中学校は、小学校が28校、中学校が16校の合わせて44校であり、今後においても学校統合が計画されております。

このように、少子化が進むなかで、一関の持続的な発展を支えていくためには、将来を担う心身共に健やかな人材の育成が欠かせないものと認識しております。

子どもたちが、ふるさと一関に誇りと愛着を持ち、地域を支える人材に成長するよう、教育行政を推進してまいります。

また、本年度は、平成28年度から令和7年度までを計画期間とする「一関市教育振興基本計画」の4年目となっております。この計画の基本目標である『学びの風土を礎に 心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ 一関の人づくり』の実現に向けて、「ことばを大切にする教育プロジェクト」「グローバル人材育成プロジェクト」「学校と地域の協働推進プロジェクト」「世界遺産拡張登録推進プロジェクト」の四つの重点プロジェクトを中心に積極的に教育施策を展開してまいりたいと考えております。

そして、当市教育委員会では「ことばを大切にする教育プロジェクト」の一環として、ことばのテキスト『言海』を活用し、市立の幼稚園、こども園、保育所の全園と全小学校において毎日10分間の「ことばの時間」を設定し、子どもたちに、心の豊かさとことばの感性や語彙の豊かさを育み、さらに多くの偉人・賢人を生み出したふるさと一関に誇りを持てる教育を進めてまいります。

このたび、当市の教育の現状、振興の施策などを、皆様に紹介するため、「いちのせきの教育」を刊行いたしました。本書が幅広く活用され、より一層のご理解を深めていただく一助になれば幸いです。結びに、当市の教育行政施策の推進にあたりまして、ご支援とご協力をお願い申し上げます、挨拶といたします。

# 目 次

一関市の概要	(4)
教育行政	
I 教育委員会	(5)
1 教育委員    2 教育委員会機構図    3 市の関係課等	
II 平成31年度教育行政方針	(7)
III 教育財政	(12)
1 令和元年度一関市一般会計当初予算    2 教育費の内訳	
3 学校の校地、建物の面積と教室数	
学校教育	
一関市学校教育の基本構想	(17)
I 令和元年度学校教育行政の方針及び指導の重点	(18)
II 幼稚園教育の方針及び重点	(20)
III 学校教育関係事業	(21)
1 重点課題・事業等について    2 市教育委員会指定研究校等について	
3 総合訪問    4 一関市幼・小・中・高・特・高専・大 学校運営推進協議会	
5 文部科学省・県教委・県研究団体等	
IV 市内各学校(園)の概況	(25)
1 児童生徒数・学級数・教職員数	
2 学校紹介	
(1) 小学校    (2) 中学校    (3) 高等学校    (4) 高等専門学校・短期大学	
(5) 特別支援学校    (6) 幼稚園・こども園	
V 学校保健	(70)
1 児童・生徒の健康	
平成30年度身長・体重(男女別平均値)	
2 学校保健団体等	
(1) 令和元年度一関市立学校医・学校歯科医・学校薬剤師    (2) 一関市学校保健会役員	
(3) 一関市学校保健会評議員	
3 学校給食	
(1) 学校給食の現状    (2) 学校給食センター	
VI 各種委員会	(79)
1 一関市中学生の社会体験学習実行委員会	
2 一関市就学支援委員会	
3 一関市生徒指導推進連絡協議会	
4 一関市いじめ問題対策連絡協議会	
5 一関市学校給食センター運営委員会	
6 一関市幼・小・中・高・特・高専・大 学校運営推進協議会	
7 一関市奨学生選考委員会	
VII 令和元年度一関市教育研究所事業	(86)
1 運営方針    2 運営の重点    3 運営組織    4 事業の概要	

社会教育

I	社会教育行政の方針	(91)
1	社会教育行政の方針	
2	文化財行政の方針	
II	令和元年度社会教育行政施策の体系と事業 令和元年度事業計画	(92)
III	社会教育関係施設紹介	(108)
1	市民センター	
2	図書館	
3	社会教育文化施設	
4	宿泊交流研修施設	
IV	指定等文化財一覧	(136)
V	社会教育関係委員	(142)
1	社会教育委員	
2	一関市立図書館協議会委員	
3	文化財調査委員	
4	博物館協議会委員	
5	芦東山記念館運営委員会委員	
6	石と賢治のミュージアム運営委員会委員	
7	いちのせき健康の森運営委員会委員	
資料 I	一関市教育委員会歴代委員	(144)
II	一関市教育委員会の沿革	(145)

# 一関市の概要

一関市は、岩手県の南端に位置し、南と東は宮城県、西は秋田県と接しています。特に宮城県北地域との結びつきは強く、北上川を介しての交流も古くから行われてきました。

一関市は、四季折々に多彩な表情を示すめぐみ豊かな自然に包まれています。そのなかで象徴となっているのは、市の西側、奥羽山脈にそびえる栗駒山と、市の東側、緩やかな丘陵地が広がる北上高地の独立峰となっている室根山などの山々です。栗駒山の周囲には深い森が広がり、湯量豊富な須川温泉をはじめ多くの温泉に恵まれています。北上高地は隆起準平原地形で、なだらかな高原には牧場が各所に開かれています。また、平泉の歴史との関わりが深い東稲山も特徴的な山容を見せています。

北上平野の南端部にあたる市の中央部には標高の低い平地が広がり、東北一の大河北上川がゆるやかに流れています。北上川の支流は、西から磐井川、金流川、東から砂鉄川、千厩川などが注ぎ込み、流域に水のめぐみをもたらしています。磐井川の中流域には溪谷美を誇る巖美溪、砂鉄川には石灰岩地帯を深く刻み込んだ猊鼻溪があり多くの観光客が訪れる名所となっています。

一関市の歴史は古く、旧石器時代から人が住み始めた形跡が見られ、縄文時代や弥生時代の遺跡も各地にあります。平安時代には安倍氏、藤原氏が独自の文化を築き上げ、その後葛西氏、伊達氏、田村氏の治世下に置かれました。

明治の近代化以降の地域の成り立ちは、明治の廃藩置県によって胆沢県、一関県、水沢県、磐井県と変遷し、明治9年に岩手県に編入されました。戦後まもなくまでは、32の町村に分かれていました。

昭和23年から33年にかけてのいわゆる昭和の大合併によって、旧一関市、旧花泉町、旧大東町、旧千厩町、旧東山町、旧室根村、旧川崎村、旧藤沢町となり、平成17年9月20日に7市町村が合併し、さらに平成23年9月26日には旧藤沢町との合併を経て現在の一関市となりました。

# 教 育 行 政

# 教育行政

## I 教育委員会

### 1 教育委員



小菅教育長



千葉委員  
(職務代理者)



小野寺委員



佐藤委員

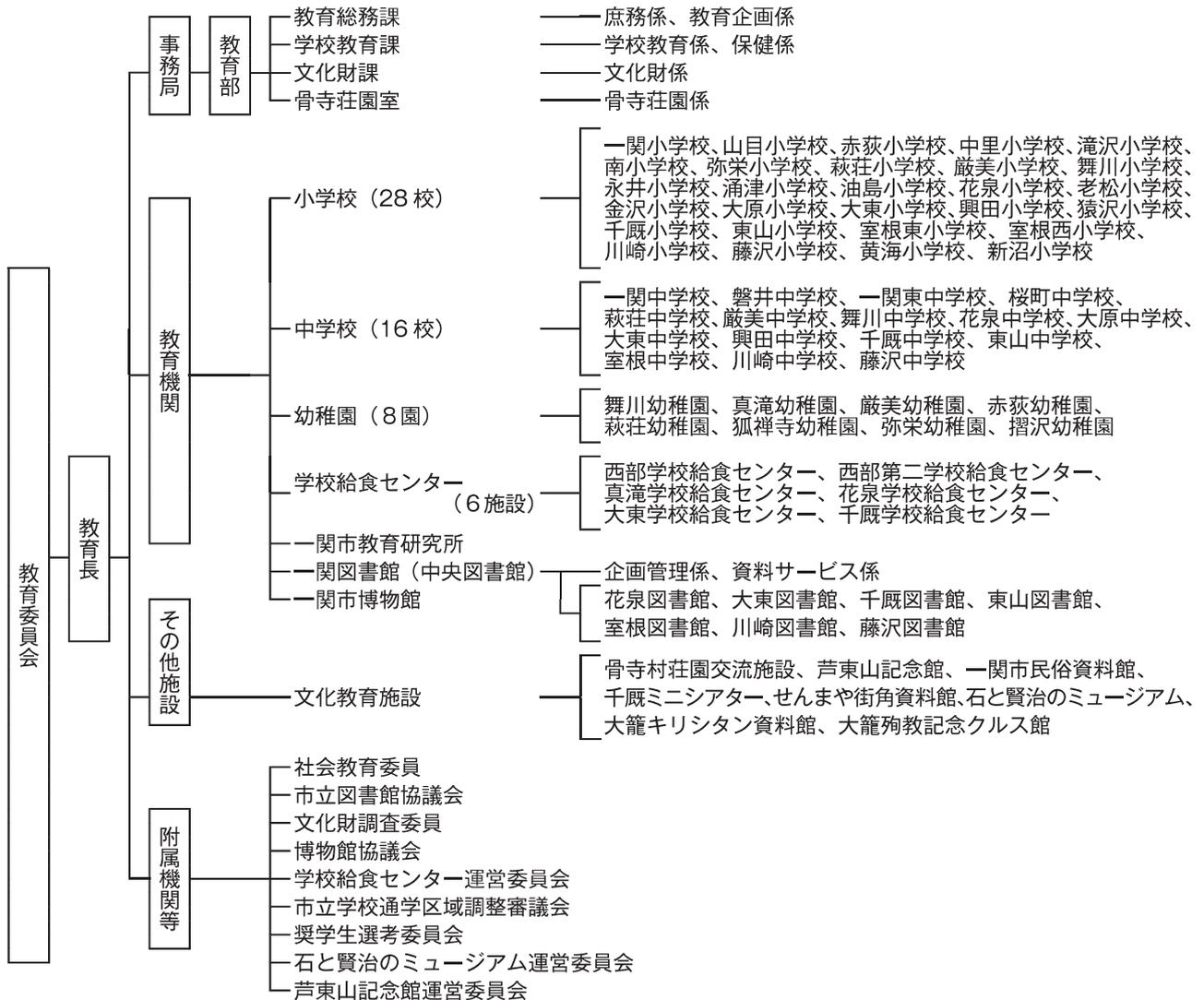


伊藤委員

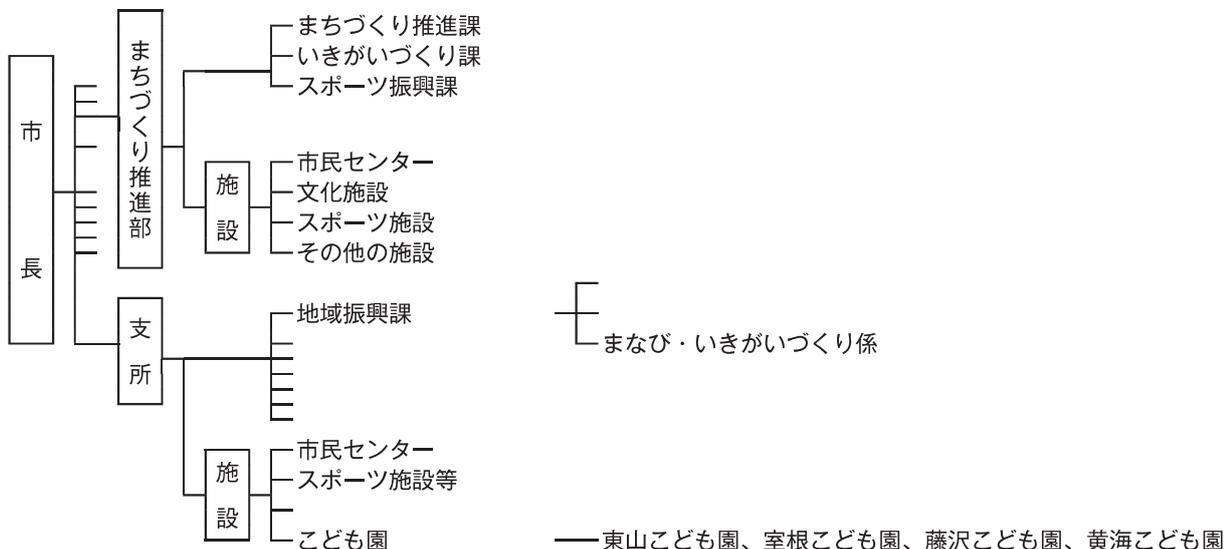
令和元年7月1日現在

職 務	氏 名	委員の任期
教 育 長	小 菅 正 晴	令和元年10月28日
教育長職務代理者	千 葉 和 夫	令和4年10月28日
委 員	小 野 寺 眞 澄	令和元年10月28日
委 員	佐 藤 一 伯	令和2年10月28日
委 員	伊 藤 一 志	令和3年10月28日

## 2 教育委員会機構図



## 3 市の関係課等



## Ⅱ 平成31年度教育行政方針

# 学びの風土を礎に 心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ 一関の人づくり

### 1. はじめに

今日の教育を取り巻く社会環境は、多様に変化しており、グローバル人材の育成、キャリア教育の推進、子どもの状況に応じた特別支援の充実、いじめ防止等の対策、人格形成の基礎となる幼児教育の振興など、教育の質の向上が求められております。

また、市民の学習意欲の高まりに応じた多様な学習機会を提供することや、先人からの文化を受け継いでいくこと、文化財を保護し、活用することが求められております。

現在、市内の小中学校は、小学校が28校、中学校が16校の合わせて44校で、今後においても学校統合が計画されているところであります。

このように、少子化が進むなかで、一関の持続的な発展を支えていくためには、将来を担う心身共に健やかな人材の育成が欠かせないものと認識しております。

子どもたちが、ふるさと一関に誇りと愛着を持ち、地域を支える人材に成長するよう、教育行政を推進してまいります。

### 2. 重点的に取り組む施策（重点プロジェクト等）

平成31年度は、教育振興基本計画の前期計画4年目となります。

この計画の目標に掲げた「学びの風土を礎に 心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ 一関の人づくり」この実現に向けて、四つのプロジェクトを重点としながら、計画の着実な推進を図ってまいります。

#### (1) ことばを大切にする教育プロジェクト

「ことばと読書」「ことばの響き」「ことばの先人」を柱として、子どもたちに、語彙の豊かさ、ことばの感性、心の豊さを育むことを目指す「ことばを大切にする教育プロジェクト」であります。

「ことばと読書」については、学校図書館と市立図書館との連携や読書普及員の配置により、児童生徒の読書活動を推進してまいります。

「ことばの響き」については、市立の幼稚園、こども園、保育所の全園と全小学校において毎日10分程度の「ことばの時間」を設定し、ことばの力を育て、心の豊かさを育ててまいります。

幼稚園等では、響きやリズムのよい諺などに触れ、楽しみながらことばを学んでまいります。

小学校では、独自に作成した「ことばのテキスト『言海』」を用いて、音読・素読に取り組み、ことばの感性を高めてまいります。また、音読に関する講演会を実施し、「ことばの時間」の一層の充実につなげてまいります。

「ことばの先人」については、博物館学芸員が小中学校に出向き、ことばを通じて人々に大きく影響を与えた先人を学ぶ授業を行い、郷土を知り、郷土への誇りを育ててまいります。

## (2) グローバル人材育成プロジェクト

グローバル化していく現代社会に対応できる人材の育成を目指す「グローバル人材育成プロジェクト」であります。

キャリア教育については、「地域に学び、地域で育てる」という視点に立って、引き続き中学生社会体験事業に取り組んでまいります。

さらに、中学生最先端科学体験研修や小学生及び中学生を対象とした英語の森キャンプの実施、外国語指導助手を幼稚園、小中学校に派遣し、英語力の向上を図るなど、多様な人との関わりを通じて、創造性やチャレンジ精神、国際理解などグローバル社会の中で求められる力を培ってまいります。

また、多文化共生、多様な価値観を理解するうえでの土台となる子どもたち自らのアイデンティティを確立させるため、郷土の先人や歴史・文化を題材にした学習を進めてまいります。

## (3) 学校と地域の協働推進プロジェクト

地域とともに歩む学校を目指す「学校と地域の協働推進プロジェクト」であります。

学校の情報や活動の様子をホームページ等で発信するとともに、保護者や地域住民が学校評議員として関わるなど、開かれた学校づくりを進めてまいります。

また、豊富な社会経験を持つ地域の方々に、ゲストティーチャーや学校支援ボランティアとしてご協力いただき、その経験を学校教育に生かすなど、地域社会全体で子どもたちの健やかな成長を育む取組を進めてまいります。

## (4) 世界遺産拡張登録推進プロジェクト

骨寺村荘園遺跡の世界文化遺産拡張登録を目指す「世界遺産拡張登録推進プロジェクト」であります。

これまでの調査研究をふまえて、構成資産として推薦書に盛り込まれるよう、課題を整理し、研究者等専門家の助言をいただきながら、県・関係市町と連携して拡張登録に向けた取組を進めてまいります。

また、重要文化的景観「一関本寺の農村景観」の保全活用に地域住民と協働で取り組むとともに、骨寺村荘園遺跡の理解を深めるための講座等を開催するなど、遺跡の保護や拡張登録への気運醸成に努めてまいります。

## (5) 教育環境の充実

学校規模の適正化については、児童生徒数の減少状況、義務教育施設の現状を踏まえ、より良い教育環境の確保に向け、各地域単位を基本としながら進めてまいりました。

今後の計画としては、平成34年度に室根地域の2校の小学校を1校に、平成35年度に花泉地域の6校の小学校を1校に統合する予定です。

東山小学校については、平成31年度の完成を目指し、平成30年度に引き続き長寿命化改修による新校舎及び屋内運動場の建設に取り組みます。

また、室根地域統合小学校については、実施設計に取り組み、花泉地域統合小学校については、用地取得や実施設計に取り組んでまいります。

そのほかの地域においても、今後の児童生徒数の推計などを示しながら、地域の方々や保護者等とともに、学校規模の適正化を考えてまいります。

学校施設の環境整備については、児童生徒の熱中症対策として、すべての市立小中学校の普通教室等に冷房設備を整備し、安全・安心を確保するとともに、小中学校のトイレの洋式化を進め、快適性の向上に努めてまいります。

少子化や保護者ニーズに対応した幼稚園のこども園化等については、今後も質の高い幼児期の教育、保

育を総合的に提供するため、幼稚園と保育所の配置状況や入所状況を勘案しながら、市長部局と連携して取り組んでまいります。

### 3. 社会を生き抜く力を育む学校教育の充実

#### (1) 学力の育成

算数・数学を重点教科に位置づけ、学習支援員の配置による指導を行うほか、「わかる授業づくり」のポイントを示した「授業改善パンフレット」の改訂を行うなど、各学校における授業改善を推進し、児童生徒の学力の向上を図ります。

また、学校が家庭と連携し、児童生徒にしっかりと家庭学習の習慣が身につくように、学校ごとに授業と連動した取組を推進します。

さらに、日本教育学会の支援期間の最終年度に当たりますが、大学の教授等を講師に、算数・数学の研修会を開催するほか、指導主事や学習指導専門員を小中学校に派遣して指導を行うことにより、教員の授業力の向上に努めてまいります。

#### (2) 豊かな心の育成

道徳教育においては、新学習指導要領で示されたように「考える道徳・議論する道徳」への転換を図ってまいります。

このほか、ことばの力を育てる教育、福祉・ボランティア教育などを充実させるとともに、積極的に自然体験、社会体験活動を取り入れます。

また、家庭、PTA及び市内の幼児期から大学までの各教育機関と連携し、あいさつの推進など共通の目標を設定しながら、子どもたちの社会性を育ててまいります。

#### (3) 健やかな体の育成

保健面からは、児童生徒がバランスの取れた食事や規則正しい生活など、望ましい生活習慣について考え、実践していく取組を推進してまいります。

運動面からは、体育授業の充実のほか、小学校での休み時間を利用した、なわとびやランニング、中学校での運動部活動など、日常的に運動の機会を確保する取組を推進してまいります。

また、県全体で推進している1日60分以上の運動、いわゆる「60運動」に家庭・地域と連携して取り組んでまいります。

なお、中学校の部活動については、昨年11月に定めた部活動の在り方に関する方針に基づき、各学校において平日週1日と日曜日を休養日に設定し、体力や競技力の向上とともに健康や生活とのバランスにも配慮した活動を推進してまいります。

#### (4) 学校給食

安全・安心な給食の提供に努めるとともに、地場産品や「もち」などの郷土食の提供のほか、望ましい食習慣の形成に向けた食育指導の充実を図ってまいります。

また、学校給食の会計については、これまで給食センターごとに運営してまいりましたが、今後、会計処理の透明性を確保するため、公会計化を検討してまいります。

#### (5) 社会の変化に応じた教育

職業観・勤労観の育成を図りつつ、変化に柔軟に対応する力を育むためのキャリア教育を、発達段階に応じて推進してまいります。

また、ICTを活用した授業を積極的に展開し、情報活用能力の育成を図るとともに、情報モラルが身に付くよう、家庭との連携によりSNS等の安全利用などについても指導してまいります。

なお、新学習指導要領においてプログラミング教育が取り上げられることから、授業のあり方等も含め、準備を進めてまいります。

#### (6) 特別支援教育

幼児期からの就学相談体制の充実を図るとともに、幼稚園には、きめ細<sup>こま</sup>かな指導支援員を配置し、集団生活への適応を支援してまいります。

また、全国的な傾向ではありますが、特別な支援を必要とする児童生徒の割合が増加していることを踏まえ、特別支援コーディネーターを増員し、就学支援や学校の特別支援教育への相談活動などを推進してまいります。

さらに、継続して小中学校への学校サポーターの配置を行い、個別の支援計画に基づき、一人ひとりに応じた支援の充実を図ってまいります。

#### (7) 学校適応指導

不登校児童生徒の割合が増加傾向にあることから、教育相談員による学校訪問や適応支援教室「TANPOPO広場<sup>たんぽぽ</sup>」における学習支援と交流体験活動などを充実させてまいります。

また、適応支援相談員による相談活動等を通じて、不登校児童生徒一人ひとりの状況を踏まえながら、きめ細<sup>こま</sup>かに支援してまいります。

#### (8) いじめ対策

いじめの把握状況がよりきめ細<sup>こま</sup>かになったことから、いじめ報告件数については増加しておりますが、その対策については、各学校の「いじめ防止基本方針」に基づき組織的に対応し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、一関市いじめ問題対策連絡協議会での話し合いなどにより、関係機関との情報共有や連携を強化してまいります。

#### (9) 幼稚園

新教育要領でも重点とされているように、小学校との連携を密接にし、就学前教育の充実を図ってまいります。

また、預かり保育の実施、低所得者層への教材費等の補足給付により、子育て世代を支援してまいります。

#### (10) 学校安全

放射性物質による汚染対策として、引き続き、学校施設や給食食材等の放射線量を測定してまいります。

また、スクールガードリーダーの巡回指導や地域ボランティア等の見守り活動の協力をいただきながら、登下校時における児童生徒の安全を確保してまいります。

#### (11) 教職員の働き方改革

業務内容の見直しや勤務時間を意識した働き方を進めるなど長時間勤務の是正を図り、教職員がいきいきと仕事に向かうことで、教育の質の一層の確保・向上を図ってまいります。

また、中学校においては、部活動指導との関係で長時間勤務になりがちなことから、部活動休養日の設定や活動時間の基準を定め、改善に努めてまいります。

### 4. とともに学び、まちとひとをつくる社会教育の推進

#### (1) 社会教育

市民が生涯にわたって自ら学ぶことができるよう、ニーズに対応した市民センター等の講座を企画するなど、多様な学習機会を提供してまいります。

また、学習した成果を地域づくりに生かせるように取り組んでまいります。

## (2) 家庭教育

子どもの規範意識や倫理観が、家庭での教育やしつけなどを通して育まれるものであることから、学校、家庭、地域などと連携し、命の大切さや我が家のルールなど、家庭で大切にしたいことを盛り込んだ「いちのせきの家庭教育10か条」の普及を図るほか、PTAや市民センターと連携し、教育の原点である家庭教育を支援してまいります。

## (3) 図書館

市全体の貸出冊数が県内市町村で最も多いなど、多くの方々に利用されているところであります。今後も、図書館サービスの向上に努め、市民が集う地域の情報拠点としての役割をより高めてまいります。

また、学習ニーズに対応した読書環境の充実に努めるとともに、市内8館が地域の特色を生かした運営を進めてまいります。

さらに、学校図書館への支援や、乳幼児健診等で司書が読み聞かせを行うなど、館外サービスにも取り組んでまいります。

## (4) 博物館

市民はもとより、宮城県北からの入館者が増加するなど当地方をはじめとする歴史や文化に対する関心が高まっているところであり、運営の充実に努めてまいります。

平成31年度は企画展として平泉周辺の仏像を取り上げ、平成30年度に国指定重要文化財となった大東町の東川院とうせんいんの木造観音菩薩坐像を中心に紹介してまいります。また、テーマ展や和算講座など事業の充実に努めてまいります。

併せて、芦東山記念館、石と賢治のミュージアム、大籠キリシタン殉教公園及び平成30年度に開館した民俗資料館についても、展示の充実に努めるなど、身近な場所で地域の歴史・文化が学べる場を提供してまいります。

## 5. 誇りと愛着を醸成する文化の継承

### (1) 文化財の保護

文化財の修繕や保護活動への助成等により、地域の文化財を良好な形で後世に伝えてまいります。

また、国の登録有形文化財である旧東北砕石工場の改修工事を行い、平成32年度からの公開を図るほか、文化財等の標柱解説板整備により、当市の歴史や文化の理解促進と文化財保護意識の啓発に努めてまいります。

### (2) 地域文化の伝承

郷土芸能団体の活動を支援するほか、民俗資料館においては、市民ボランティアの協力を得ながら、昔の生活道具を使った体験学習の機会などを提供してまいります。

## 6. おわりに

以上、平成31年度の教育行政施策の概要を申し上げましたが、各施策の推進にあたっては、学校、家庭、地域、企業、行政が共通理解のもと、当市の教育行政に携わる全ての関係者の連携・協働が必要であります。

教育委員会といたしましては、地域資源を生かした教育行政施策を進め、郷土の誇りを未来に引き継ぎ、新たな創造を加えてまいりたいと考えておりますので、議員各位並びに市民、教育関係者の皆さまのご理解、ご協力、ご指導を心からお願い申し上げます。



## 2 教育費の内訳

(令和元年度当初予算)

内 訳	予 算 額 (千円)	構成比 (%)	内 訳 (単位:千円)
教育総務費	616,030	9.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育委員会費（特別職給与、教育委員会運営費、全国都市教育長協議会負担金、東北都市教育長協議会負担金、岩手県市町村教育委員会協議会負担金、学校施設財産処分積立基金積立金） 19,095</li> <li>○事務局費（職員給与費、教育委員会事務局運営費、奨学金貸付事業費、学校図書館ネットワーク事業費、児童・生徒・学生顕彰事業費、県職員派遣費負担金、岩手県安全運転管理者部会連合会負担金、一関地区安全運転管理者事業主会負担金、私立高等学校生徒学費補助金、一関市学校保健会補助金、私立学校運営費補助金） 382,389</li> <li>○教育研究所費（学力実態調査事業費、教育研究事業費、教育研究所連盟負担金） 27,989</li> <li>○教育指導費（ことばの力を育てる教育推進事業費、教育指導事業費、外国語指導助手配置事業費、中学生の社会体験学習事業費、特別支援教育推進事業費、幼児ことばの教室事業費、障がい児就学支援事業費、適応支援相談員配置事業費、地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費、市内幼小中高特高専大校運営推進事業費、中学生最先端科学体験研修事業費、命をつなぐプロジェクト事業費、学びの活性化事業費、いじめ問題対策事業費、日本学校教育学会学力向上支援事業費、一関地区教科用図書採択協議会負担金、一関地方教育推進協議会負担金、一関生徒指導推進協議会負担金、岩手県特別支援教育研究会負担金、岩手県難聴言語障がい教育研究会負担金） 186,557</li> </ul>
小学校費	3,175,078	49.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校管理費（職員給与費、施設管理費、学校運営事業費、学校給食事業費、学校保健事業費、公共施設等総合管理計画推進費、日本スポーツ振興センター負担金、学校安全互助会負担金、岩手県学校給食研究会負担金、特別支援学級設置学校長協議会負担金、一関市幼小教育連絡協議会負担金） 797,781</li> <li>○教育振興費（教材備品等購入費、理科設備用品購入費、図書購入費、指導用教科書購入費、就学援助費、特別支援教育就学奨励費、学校用コンピュータ整備事業費、遠距離通学対策事業費、小学校体育連盟補助金） 221,705</li> <li>○学校建設費（花泉地域統合小学校整備事業費、東山小学校整備事業費、室根地域統合小学校整備事業費） 2,155,592</li> </ul>
中学校費	760,916	11.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校管理費（職員給与費、施設管理費、学校運営事業費、学校給食事業費、学校保健事業費、公共施設等総合管理計画推進費、日本スポーツ振興センター負担金、学校安全互助会負担金、特別支援学級設置学校長協議会負担金） 570,173</li> <li>○教育振興費（教材備品等購入費、理科設備用品購入費、図書購入費、指導用教科書購入費、就学援助費、特別支援教育就学奨励費、学校用コンピュータ整備事業費、遠距離通学対策事業費、中学校文化活動補助金、中学校文化連盟補助金、中学校体育連盟補助金） 190,743</li> </ul>

内 訳	予 算 額 (千円)	構成比 (%)	内 訳 (単位:千円)
幼稚園費	386,465	6.0	○幼稚園費（職員給与費、施設管理費、幼稚園運営事業費、幼稚園保健事業費、実費徴収補足給付事業費、幼稚園一時預かり事業費、公共施設等総合管理計画推進費、日本スポーツ振興センター負担金、岩手県公立幼稚園・子ども園協議会負担金、一関地区公立幼稚園研究協議会負担金、一関市幼小教育連絡協議会負担金、私立幼稚園就園奨励費補助金、私立幼稚園第3子以降保育料等補助金） 386,465
学校給食センター費	539,604	8.3	○学校給食センター費（職員給与費、学校給食センター運営費、学校給食費公会計化事業費、郷土愛を育む食育交流事業費、公共施設等総合管理計画推進費、岩手県学校給食センター協議会負担金） 539,604
社会教育費	987,434	15.3	○社会教育総務費（職員給与費、青少年健全育成事業費、子どもたちによる地域の情報発信事業費、英語の森キャンプ事業費、放課後子ども教室事業費、学校支援地域本部事業費、地域コミュニティ再生支援事業費、成人式開催費、学校施設開放事業費、岩手県社会教育連絡協議会負担金、一関地方社会教育協議会負担金、教育振興運動実践活動補助金、社会教育関係団体活動費補助金、女性団体活動費補助金、キャンプ場開き開催補助金、ユネスコ協会活動費補助金、一般事務費） 270,044 ○文化財保護費（一般文化財費、埋蔵文化財費、文化財保存管理費、民俗芸能伝承記録保存事業費、骨寺村荘園遺跡調査研究事業費、文化的景観保護推進事業費、骨寺村荘園遺跡世界遺産登録推進事業費、骨寺村荘園遺跡保全活用事業費、文化財標柱・解説板整備事業費、史跡等環境整備事業費、ときめき世界遺産塾負担金、全国史跡整備市町村協議会負担金、全国文化的景観地区連絡協議会負担金、全国近代化遺産活用連絡協議会負担金、全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会負担金、岩手県文化財愛護協会負担金、岩手県史跡整備市町村協議会負担金、指定文化財保護事業補助金、郷土芸能活動事業補助金） 147,651 ○図書館費（施設管理費、運営事業費、巡回文庫費、図書館資料整備事業費、日本図書館協会負担金、岩手県図書館協会負担金、岩手県統計協会負担金、岩手県南第一地域視聴覚教育協議会負担金） 261,130 ○博物館費（資料関係費、展示費、調査研究費、交流連携費、運営事業費、施設管理費、企画展示費、古文書等資料調査費、骨寺村荘園調査研究費、甲冑修復事業費、民俗資料館運営事業費、公共施設等総合管理計画推進費、日本博物館協会負担金、全国美術館会議負担金、東北史学会負担金、岩手県博物館等連絡協議会負担金、） 96,205 ○石と賢治のミュージアム費（施設管理費、自主事業費、旧東北砕石工場保存・公開活用事業費、岩手県博物館等連絡協議会負担金） 190,140 ○芦東山記念館費（施設管理費、自主事業費、調査研究費、岩手県博物館等連絡協議会負担金） 17,053 ○大籠キリシタン殉教公園費（施設管理運営費） 5,211
計	6,465,527	100.0	

### 3 学校の校地、建物の面積と教室数

令和元年5月1日 現在

区 分	校 地 面 積 (㎡)				建 物 面 積 (㎡)				教 室 数			
	建 物 敷 地	屋 外 運 動 場	そ の 他	計	校 舎	屋 内 運 動 場	計	給食室 柔道場 その他	普通 教室	特別 教室	計	
小 学 校	1 一 関	9,119	11,415	1,640	22,174	5,434	964	6,398	153	22	11	33
	2 山 目	8,095	14,247	5,663	28,005	7,096	1,363	8,459	110	24	10	34
	3 赤 荻	6,300	7,333	1,153	14,786	2,737	963	3,700	43	14	7	21
	4 中 里	6,063	3,091	3,825	12,979	2,765	895	3,660	63	9	9	18
	5 滝 沢	7,590	15,613	10,945	34,148	2,735	828	3,563	110	8	8	16
	6 南	8,199	7,840	2,522	18,561	6,238	1,258	7,496	117	17	11	28
	7 弥 栄	7,182	9,600	6,219	23,001	2,104	803	2,907	14	5	5	10
	8 荻 荘	14,332	11,551	14,688	40,571	5,991	1,289	7,280	236	15	10	25
	9 巖 美	4,456	4,668	2,329	11,453	2,109	696	2,805	18	9	6	15
	10 舞 川	10,971	10,727	21,249	42,947	2,696	825	3,521	130	8	7	15
	11 永 井	7,600	12,975	15,427	36,002	3,467	981	4,448	135	8	9	17
	12 涌 津	3,500	5,750	5,499	14,749	2,289	683	2,972	40	8	9	17
	13 油 島	6,224	12,160	4,896	23,280	2,060	825	2,885	40	9	5	14
	14 花 泉	14,266	7,186	2,396	23,848	3,646	1,092	4,738	49	7	11	18
	15 老 松	4,548	6,460	745	11,753	1,765	560	2,325	9	8	7	15
	16 金 沢	3,125	8,961	2,516	14,602	1,796	698	2,494	11	8	6	14
	17 大 原	7,553	9,306	3,226	20,085	3,515	1,019	4,534	31	8	7	15
	18 大 東	8,348	12,600	4,405	25,353	4,121	1,076	5,197	50	14	7	21
	19 興 田	5,762	17,955	5,532	29,249	3,387	1,022	4,409	21	8	7	15
	20 猿 沢	4,417	5,773	626	10,816	2,218	720	2,938	27	8	7	15
	21 千 厩	23,232	18,353	9,914	51,499	5,923	1,270	7,193	102	18	8	26
	22 東 山	9,651	15,503	7,426	32,580	3,514	878	4,392	60	30	16	46
	23 室 根 東	5,375	8,037	13,063	26,475	2,005	800	2,805	18	7	6	13
	24 室 根 西	4,187	6,359	1,654	12,200	2,044	810	2,854	14	7	7	14
	25 川 崎	4,948	4,315	14,245	23,508	2,565	702	3,267	59	8	7	15
	26 藤 沢	14,591	4,800	1,528	20,919	4,723	1,127	5,850	86	10	8	18
	27 黄 海	3,186	3,335	7,551	14,072	2,762	750	3,512	21	8	7	15
	28 新 沼	5,483	5,760	4,093	15,336	1,947	650	2,597	30	5	8	13
計	218,303	261,673	174,975	654,951	93,652	25,547	119,199	1,797	310	226	536	
	借 0	借 0	借 2,225	借 2,225								

区 分	校 地 面 積 (㎡)				建 物 面 積 (㎡)				教 室 数				
	建 物 敷 地	屋 外 運 動 場	そ の 他	計	校 舎	屋 内 運 動 場	計	給 食 室 柔 道 場 そ の 他	普 通 教 室	特 別 教 室	計		
中 学 校	1 一 関	15,110	19,037	28,921	63,068	3,976	1,237	5,213	483	11	14	25	
	2 磐 井	12,340	12,441	14,444	39,225	7,468	1,460	8,928	560	18	13	31	
	3 一 関 東	9,690	20,003	5,353	35,046	2,977	1,222	4,199	90	5	10	15	
	4 桜 町	14,890	9,086	1,014	24,990	10,648	1,237	11,885	35	11	12	23	
	5 萩 荘	5,330	15,585	7,528	28,443	3,132	1,189	4,321	45	9	12	21	
	6 巖 美	6,736	11,650		18,386	2,901	1,162	4,063	26	3	10	13	
	7 舞 川	5,569	8,527	8,728	22,824	1,794	858	2,652	24	4	8	12	
				借 205	借 205								
	8 花 泉	19,421	16,050	2,833	38,304	6,265	1,653	7,918	680	11	17	28	
	9 大 原	11,994	24,361		36,355	4,097	1,282	5,379	383	4	15	19	
	10 大 東	11,372	16,207	18,541	46,120	3,781	1,428	5,209	24	8	12	20	
	11 興 田	11,089	8,811	5,744	25,644	3,758	930	4,688	38	4	12	16	
	12 千 厩	14,400	13,300	17,085	44,785	5,887	1,337	7,224	652	11	14	25	
				借 1,410	借 1,410								
	13 東 山	14,602	12,586	20,420	47,608	3,597	1,202	4,799	427	7	16	23	
	14 室 根	13,676	30,830	13,550	58,056	3,832	1,125	4,957	455	5	12	17	
15 川 崎	11,703	23,433	14,269	49,405	3,080	1,214	4,294	424	5	9	14		
		借 5,457	借 5,457										
16 藤 沢	12,017	20,726	1,166	33,909	3,741	1,155	4,896	395	9	12	21		
計	189,939	262,633	159,596	612,168	70,934	19,691	90,625	4,741	125	198	323		
		借 5,457	借 1,615	借 7,072									
幼 稚 園 ・ こ ど も 園	1 舞 川 幼	1,400	1,650	2,066	5,116	621		621		3		3	
	2 真 滝 幼	1,743	2,032	862	4,637	624		624		3		3	
	3 巖 美 幼	1,336	1,304	790	3,430	589		589		3		3	
	4 赤 萩 幼	960	1,517		2,477	481		481		3		3	
	5 萩 荘 幼	1,461	1,116	943	3,520	473		473		3		3	
	6 狐 禅 寺 幼	3,890	2,550	1,650	8,090	386		386		2		2	
	7 弥 栄 幼	1,875	2,734	917	5,526	364		364		2		2	
	8 摺 沢 幼	1,681	1,157		2,838	572		572		3		3	
	9 東 山 こ	3,398	2,670	218	6,286	1,297		1,297		3		3	
	10 室 根 こ	904	1,830	2,510	5,244	922		922		3		3	
	11 藤 沢 こ	3,249	2,132	1,624	7,005	1,559		1,559		3		3	
	12 黄 海 こ	3,105	1,331	293	4,729	889		889		3		3	
計	25,002	22,023	11,873	58,898	8,777		8,777		34		34		